

博友会再参加への感想

李 東坡 (平成24年博士修了)

私は平成20年10月に日本政府国費留学生として、九州大学農業経営学研究室に入学しました。その後平成24年3月に博士号を取得し、帰国しました。現在、中国河北省社会科学院に研究員として勤めており、農村・農業経済学に関わる研究に励んでいます。留学生時代は、南石先生をはじめ、様々な素晴らしい先生方に出会い、何度も貴重なアドバイスやご指導を頂いたことに深く感謝しております。また、研究室のよい仲間にも恵まれ、研究・勉学に頑張っていた頃を懐かしく思います。今回、再び九州大学主催の国際シンポジウム EAEP2013 に参加した際、2年ぶりに博友会に出席させて頂き、色々な想いが

湧いてきたので執筆しようと思います。

昨年の11月、EAEP2012に参加した時は、一転氷点下まで冷え込んだ中日関係のため、飛行機の中に空席が目立っていたことが印象的でした。そのため、今年出発する前には、「両国関係は依然として厳しく、きっと機内はもっとガラガラになり、荷物を横の席に置いてもいいかな」と思ったので、荷物を預けずに機内に持ち込みました。しかしながら、搭乗すると、機内はほぼ満席であったことに驚きました。やむを得ず、荷物を一個だけ座席上の収納棚に入れ、ほかは座席の下に入れ込みました。この細事から、私は「先人達が心血を注いで構築した中日

両国民の間の絆は、容易に切れられない」ことを実感しました。留学生時代に何度も両国に出入国した経験を持つ私は、中日関係が困難に臨むいまだからこそ、この経験の中に一番深く中日関係の希望を見出しました。政治的な困難に直面して往来する国民は、ただの統計データの一人一人ではなく、国と国との交流の基礎となります。私は今回シンポジウム・同窓会の参加を通して、両国間の友好を拡大・深化させるために、精一杯の力を尽くす事が重要だと考えるようになりました。

「博友会」の「博」は「博多」を意味していますが、そもそも「多くの地域から招く」「知識の分野が広い」といった意味も含んでいます。中国ではインターネットの「ブログ (BLOG)」は「博客」と名付けられています。同じように、「博友会」は多様な出身地域・知識背景を持つ同窓が集まる組織であると思います。私はその一員であることを嬉しく、そして誇りに思います。特に懇親会の時、みんなは先生と生徒という関係を超越し、職種・国籍なども忘れ、同窓や友達として和気藹々と楽しみ、絆を深

めたことを覚えています。さらに、先輩方のお話も面白く素晴らしいもので、学ぶところが多々ありました。「博友会」の懇親会は中華料理屋の平和楼で行われ、異国でも慣れた味を愉しめるほか、先輩方の中国事情への関心の深さに感心しています。今回の懇親会を通して、日本において中国のことに熱情を持つ方々が多く存在することを実感することができ、非常によい経験となりました。今後も日本の先生方よりご指導を頂きながら、共同研究を通して両国民の理解が進むように日々精進していきたいと思



2013年11月15日に天神の平和楼で行われた懇親会での発言